

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、14番末藤議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本日最後の質問となりました。ただいま登壇の許可をいただきましたので、14番末藤の一般質問を始めます。

先ほどまで傍聴席にはたくさんの方がいらっしゃいましたが、残念ながら今、引き取られました。一生懸命質問をしていきたいと思えます。

まず初めに、東日本大震災の支援についてお尋ねをしていきます。

3月11日に未曾有の東日本大震災が発生いたしまして9カ月間がたったわけでございます。地震、津波、放射能の被害を受けて、自宅を離れ避難をされている方が現在32万8,000人超おられるという報道が入っております。また、きょう朝の質問の中でも仮設住宅にお住まいになっている大友さんの話も出ておりました。きょうのお昼のニュースでは雪が降ったというようなこともニュースが流れておりましたが、仮設住宅にお住まいの方は本当に寒い冬を今から迎えられるんじゃないかということで、本当に大変なことだろうというふうに思うわけでございます。

この間きょうまでの間、武雄市では樋渡市長のリーダーシップのもとに東日本大震災のいろんな支援活動を行ってまいりました。

まず、明るく日の募金活動から始まり、災害備蓄物資の発送、また、被災者を受け入れるタウンステイ構想、市職員の被災地への派遣、そして、夏休み中の被災地の子どもたちを受け入れ、また、市長みずから現地での瓦れきの撤去のボランティア、そして、9月から10月にかけてのチーム武雄のボランティア活動の派遣、そしてまた、ほかの団体におかれましても、婦人会の皆さん、ほかのグループの皆さんもいろんな面で支援に取り組んでいただきました。今までこういう支援活動をやってこられまして、この総括をどう評価されているのか、まず質問をいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私のリーダーシップについてお褒めをいただきましたけど、やっぱりリーダーシップというのはきっかけづくりにしかすぎんとですよ。そういう意味で、これに呼応して本当に考えられないほど多額な寄附金をお寄せいただいた市民の皆さん、そして、上野議員からも御指摘がありましたように、例えば毛布とか水とかさまざまなもの、もう東北の皆さんたちが困

りよんさあけんが、市民の皆さんたちが自分の生活を少し犠牲にしてまでも持ってきんさった人たちもいらっしゃいます。あるいは婦人会です。婦人会であるとか、区長会であるとか、老人会であるとか、さまざまな各種団体のお力なくして今の武雄が、今どこ行っても被災地支援に一番熱心に取り組んでいるとは、武雄市長と言われんとですよ、武雄市民と言われるつとですね。それが私にはうれしくて。ですので、そういうことで、私はこの場をかりてでも武雄市民の方々にまずお礼を申し上げたいというふうに思っています。

その一方で、それをやっぱり制度として支えたのは皆さんたち議会なんですよ。よくいろんな、私も全国にトップセールス等で飛び回って、議会不要論が出ます。うちの議会はもうほんなこってどがんするぎ変わるでしょうかとか。しかし、武雄市議会の例ば出すぎんた、そがんよか議会のあつとですかってやっぱり言いんさあですもんね、一部例外はいらっしゃいますけど。ですので、そういったことで、市議会が本当に我々に対して——私には執行権しかなかとですよ。これはよく勘違いされます。私は何かワンマンとか独裁とかも言われますけど。違いますよ、こんな優しい独裁者はいません。ですので、そういう中で、議会がきちんと決めたこと、あるいは後押しすることに沿ってあるから武雄はこれだけの波及力、訴求力——人口5万人しかなかとですよ。だけど、今、被災地支援、東北の中での武雄の位置というのは驚くべきほど高いです。それは、繰り返し申し上げますけれども、まず市民のお力です。それを支えてくださった議会、皆さんたちのおかげだということで、この場をかりてお礼を申し上げたいと思います。

ただ、武雄市民の皆さんたちにぜひお願いがあるのは、この復興というのはやっぱり10年、20年かかります。これは陸前高田市長もおっしゃられているとおり、支援が途切れたら、また起きるのは大変です。ですので、細くてもいいから末永くしてほしいということを陸前高田市長はたびたび涙に声を詰まらせながらでもおっしゃいますので、その気持ちを我々はちゃんと受け取ってそういった支援を行うようにしていきたいなというふうに思っております。

最後になりますけど、それを打って一丸となって制度設計をしたつながる部の山田部長を初めとして、つながる部の被災者支援課、ここは本当にもう休みなくよくやっています。ですので、そういう役所、議会、そして市民の皆さんたち、団体の皆さんたちが本当に温かい輪となって、それこそ本当の意味でのチーム武雄になっていることが本当に私自身うれしく思っていますし、誇りに思いたいと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

11月の市報、またはきのうの山口議員の質問の中でも紹介されておりましたが、チーム武雄、本当にこの活動、陸前高田市での活動、大変すばらしいものだったと思っております。

被災地の方の本当に復興支援の一助になったのではないかということで大変評価をしているところでございます。このチーム武雄にボランティアとして参加された方、また建設業協会の皆さんには本当にお疲れさんでございましたと、ここで御礼を申し上げたいと思います。

今、市長の答弁の中でもございましたが、やはり今からも継続して支援をしていく必要があるかというふうに思うわけでございます。今後いろんな支援がまだまだ必要だと思います。そういうような中で今後どういう支援をとっていかれるのか、考えておられるのかお尋ねしたいと思います。

昨日このボランティア活動も非常によいことだということで、次のまた募集があるのかなということで質問しようかと思っておりましたが、昨日答弁もあったのでそれは割愛したいと思います。今後そういう支援はどういうことを考えておられるのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大きく3つ考えています。

1つは、チーム武雄2ですよね。ですので、来年度になると思いますけれども、やはりバスで伺って何らかのボランティア活動を行うと。それも、1回行って飛ぶのではなくて、なるべく今回みたいに4弾とか5弾とかまとまって、1弾が終わったら2弾目、3弾目というふうに行けるようにしたいなと思っているんですけれども、これは山口等議員からも御質問があったように、時期についてはまだいつがいいのかなというのは我々としてもありますけれども、これは被災地の皆さんたちの声に耳を澄ませたいと思っていますので、それは調整をさせてください。調整をさせて、つながる部を中心にして調整をした上でまたお諮りをしたいというふうに思っています。これが第1です。

第2については、きのう山口等議員にもお答えしましたとおり、例えば陸前高田市の場合は泊るところがないといったところで、もう個別具体の要望が出てきています。そういった中で、そういう泊るところに何がしかの支援をさせていただいて、これは公費が伴わないように支援をしたいと思っていますけれども、例えば募金で我々が予算を立てている分があります、既決予算であります。その分から支弁をするという形で、新たな公費負担を求めないということが前提なんです。それで、例えば復興ホテルの運営費に回していただくと。ただ、そうはいつでもこれは出しっ放しじゃなくして、例えばチーム武雄が、あるいは武雄市民の方がそこに訪れたと、ボランティアなり観光で訪れたときに、武雄市民を証明する証があれば、例えば1割引とか2割引とかいうふうにするということが条件で出せば、そういう支援もぜひ議会の皆さんたちと相談をしながら出していききたいなと思っています。

そして、これは最後にしますけれども、今やっぱりわからないんですよ、どういう支援が

必要なのかというのは。1つ目に戻るんですけども、やっぱりこれはさまざまな声を、特に議員の皆さんたちにぜひお願いをしたいのは、多くの議員の皆さんたちがやっぱり東北に行かれたりとか、あるいは以前視察に行かれたりとかというふうにして、我々一般の市民よりもはるかに強くて太いネットワークを持たれています。そういった中で、聞いていただいこうということが必要かばいということについては、ぜひ私なり、副市長なり、つながる部にお寄せいただいて、それに応じて我々は何かできることをしていきたいなというふうに思っております。

長くなりましたけれども、我々とすれば、本当に求められていることをやりたいということで、これは行政だけでは無理です。ですので、市民のお力を結集してかりながら進めていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

いろいろまた支援をお願いしたいと思います。

今までの支援の中で、夏休みの子どもたちの受け入れ、これは写真見ていまして本当によかったなということだと思っております。子どもさんたちの表情の明るさ、非常によかったなということだと思っておりますが、これ、来年の夏休みとか、そういう長期休みのときに取り組まれる予定はないのか、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実は、今度の冬休みにも1組がお越しになりますので、それは1対1の家族じゃなくて、地域の皆さんとかも負担にならない形で交流をしていきたいと思っております。

それと同時に、やっぱりポイントは休みなんですね。春休みだったり夏休みだったりします。これについては、ぜひまたしていきたいというふうに思っています。これ、もちろん被災地から来られた、あのときは福島県の郡山の小学生だったので、私も精神年齢が同じですので参りましたけれども、来た子どもたちも初めてのプールで、すごい喜んでいましたけれども、これは思わぬ効果といったらちょっと語弊があるかもしれませんが、上田議員の息子さんもそうなんですが、受け入れの子どもたちが物すごくやっぱり喜んでいたんですよ。ですので、そういった交流、子どもたちの本当の純粋な意味での交流がそこで図られるということであれば、単にこれは被災地支援だけでなく、子どもたちの教育効果があるというふうにも思っていますので、これはもう少しフェイスブック等で広報をして、1,200万人ぐらいになられているフェイスブックとかで出して、また呼び込みたいというふうに思ってい

ます。これは、タウンステイ構想でうちももう予算を立てていますので、それは積極的にそこから支弁をしていきたいと思ひますし、やっぱり浦郷教育長ですよ、もうこがんとはどんどんせんばて言んさあけんですね、よく教育委員会と連携をしながら受け皿づくりも図ってまいりたいと、このように思ひております。

やっぱりうれしかったのは、その場に大人の人たちの来んさあぎんた、だれでんやっぱり喜ぶとですよ。子どもたちだけじゃなくて、学校の先生たちじゃなくて、そこに地域の皆さんたちもいっぱい来よんさったですもんね。そこがやっぱり武雄の私は本当のよさだというふうにも思ひております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

もうぜひ取り組んでいただきたいというふうに思ひます。やはり被災地の子どもたち、そしてまた地元の子どもの教育にもつながっていくと思ひますので、どうか教育長もよろしくお願ひいたします。

それと、私も5月に市長たちと一緒にボランティア活動、そしてまた10月にも会派の研修というふうなことで被災地を訪れたわけでございます。やはりそういうふうな中で、一番目立ったのが瓦れきでございます。瓦れきの山、本当に10月行ったときは5月行ったときよりもかなり瓦れきそのものは片づけてありましたけれども、片づいたというのはただ1カ所に寄せたというだけで、瓦れきの山がいっぱいあちらこちらに点在をしておりました。それを車窓から見まして、やはりあれを片づけないとこれは復興ないなというふうな気持ちで見帰ったわけでございます。

そういうふうな中で、市長が被災地の瓦れきの、これは放射能がない瓦れきをというふうなことで受け入れるという表明をされましたが、いろんなメール、または脅迫的な電話等もあったというふうなことで、やむなくそれを取りやめ、撤回をされたわけでございます。そういう情報の中、次の日の新聞に、やはり市単体としてはできない、これはやはり国に要望すべきだというふうな記事も、陸前高田市の副市長との対話の記事も載っております。そういうことで、本当にこの瓦れきというのは日本全国で考えていかないかん問題だろうというふうに思ひるわけでございます。そういうふうなことで、今後市長はどういう行動をとってこの瓦れき問題を考えていかれるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、そもそも全然まだ報じられていませんけど、瓦れき処理については2つの特別法が

あります。1つが、一般災害廃棄物、放射線等に汚染されていない廃棄物の法律。それともう1つが、放射能に汚染された瓦れき等の、というふうに2つに分かれているんですよ。ここまでいいですよ。しかし、僕は過去官僚です。昔、役人やっていましたので、法律が抜け穴だとかというのは一発見ればわかります。ですが、その中で驚くべきことは、こっちの一般廃棄物のほうには国の責任しか書いていないんですよ、国の責任しか、これは簡単だから。こっちの放射能に汚染された瓦れき等の法律については、これはすごいんですよ。国の責任は書くのは当たり前。しかし、基準が何も書いていない、基準が書いていないんですよ。それと、地方公共団体の責務というのが書いてあるんですよ。これ、地方公共団体というのは被災地のだけじゃありません。地方公共団体と書く場合は、全国の1,797自治体の責務というふうになります。ですので、何も解決されていないのに地方公共団体がそこで手伝えてなっているんですよ、もう。それと、さらに驚くのは、国民の責務まで書いてあるんですよ、国民の。「国民は国及び地方公共団体の放射能の瓦れき処理に関する施策に協力しなければならない。」です。何ですか、これは。ここに私はもう民主党政権はでたらめだと思いましたね。逆ですよ、放射能に汚染されたものについては、これは国の責任です。エリアでいうと、これはもうちょっと正直いって申しわけないんですが、被災地3県でちゃんとやるべきなんですよ。これはもう、それはそうです。これは、放射線に汚染されたものを持ってくるということになると、汚染されたものが飛散する可能性があるんですよ。だから、そこはそのエリアで、国の責任で処理をしなければいけないと、これはもう反対派の人たちと僕も一緒です、そこは。

そこで、もう一回翻って戻ると、そこは国の責任だけで書けば済むのに、放射線のところだけ国民まで協力せな、これこそ大政翼賛会と一緒にじゃないですか。国民は今、「カーネーション」というすばらしいNHKの連ドラ、朝ドラやっています。私は録画したのを見ますけれども、今ちょうど赤紙召集のところが出ているんですよ。これと一緒にじゃないですか。だから、もう3月11日以降、国のやっていることは、党でもそうですけれども、本当でたらめですよ。これ1つだけとっても、国の責任のとり方とか、どういうふうにしてやるかという覚悟も見えないし、そして、環境省のお役人は何と言っているかという、「今回の瓦れき処理の件は地方の問題ですから」って、こんなことを言っているんですよ。それを私は、国民の意思としてきちんとした法整備を整えなさいと。ということをやぜひこれは申し上げたいというふうに思います。

一部ちょっと私の言い方が悪かったかもしれませんが、報道で誤って伝わった部分が、これは私の責任です、報道の責任じゃありません。伝わって、要するに、国が地方に押しつけるようなスキームというふうになったんですけど、これはちょっと違って、さっきみたいに、今のままだと放射線のやつが押しつけになるんですから。そうじゃないということで、もう一回整備をするように国に求めたいというふうに思いますし、それとなおかつ、やっぱり基

準といってもある基準とない基準というのはつくんなきゃだめですよ。（「そうです」と呼ぶ者あり）8,000ベクレルといってもわかんないでしょう。等議員、わかる、ちょっと通じないみたいです。ですので、8,000ベクレルとかというと、もう国なんか信用していませんもんね。ですので、ない基準をつくってくれって。末藤議員も私も放射線出しています。これも出しています、これは自然放射線といいます、自然放射能というのを出します。だから、これが大体、このマイクはこれぐらいだとか、末藤議員はこれぐらいだとかというのを出した上で、その範囲内っていったら国民は納得するんですよ。

ですので、そういうある基準とない基準をつくって、しかも、搬出するときは、このない基準にしましょうって。それよりも上の8,000ベクレルとかじゃなくて、その上の部分のはもうちゃんとそこで処理しましょうということを、これを私は国に対して強く申し入れたいと思いますし、これ、市長会を巻き込もうと思っています、全国市長会を。もう私一人で言っても遠吠えです。ですので、これ、市長会にぎゅって、もう市長会長言ってくださいって。全国市長会長ですよ、佐賀県市長会長じゃなくて。行って、その直談判をして、全国市長会から声を上げてもらうことも今考えております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当にわかりました。市長の熱意を聞きまして力強く思っております。本当に瓦れき、やはりみんな日本全国協力して何とかしないと片づかないと思います。そういうことで、国に安全基準をもう少ししっかり定めていただいて、何とか瓦れき対策を全国でとっていただければと思います。これは樋渡市長の強いリーダーシップがかかっているようでございますので、よろしく願いをしておきます。

先ほどからの答弁にありましてとおりに、被災地、まだまだ支援が必要だと思えます。何とか被災地を注視しながらアンテナを高く張っていただいて、被災者の顔が見える支援を今後ともお願いしておきたいと思えます。

次に、行政改革の質問に移らせていただきます。

これは10月に総務常任委員会で、埼玉県三郷市、今ちょっと事件の話で、テレビで三郷市がよく出ておりますが、そこへ10月に行政改革の取り組みというようなことで行政視察を行ってまいりました。行政改革については、経費削減という消極的な考えではなく、事務事業の改革を進め、少ない資源を投入してこれまでと同じ効果を生み出すようにしなければならない。資源とは人、物、金であり、できる限り少ない資源を投入して成果を上げることに頑張っておるといような説明を受けたわけでございます。これは当然、武雄市もそのように取り組んでおられるのかなというふうに思うわけでございます。そういうことで視察を終わ

りまして、改めて武雄市の決算の概要を見てみましたので、その内容をグラフにしましたので、ちょっとここで提出したいと思います。

(パネルを示す) 大体、歳出の中の任意で節約ができない、極めて硬直性の高い、義務的経費の中の一つ、これは扶助費でございます。それとあと扶助費と公債費、それから人件費と3つのグラフをつくりましたので、ちょっと見ていただければと思います。

扶助費はここに書いておりますとおり、社会保障制度の一環として、生活困窮者、高齢者、児童、心身障がい者等に対して行っているさまざまな支援に要する経費、皆さん御存じのとおりだと思いますが、先ほど上野議員の福祉の議論の中でも扶助費というのが出ておりました。傍聴者の方も聞いていただければなと思っておりましたが、残念ながら。そういうことで、18年度から22年度、この青で表現したのが全体の費用ですね。そして、黄色であらわしたのが、その中で一般財源を投入した分でございます。そういうことで、18年度28億円あったのが22年度は40億円に膨らんでおります。先ほど市長の説明もありました。そういうことで、21年度32億円から22年度40億円に膨らんだのは、子ども手当の創設、これがあったわけで、この扶助費が膨らんだというようなことでございます。

そして、(パネルを示す) 次が公債費ですね。

これは、市債が幾らあるのか、毎年の返済の金額でございます。これは、ここに書いております公債費、地方公共団体が借り入れた借金の元利償還金などというようなことでなっております。これは18年度が25億円、19年度が25億3,900万円、20年度が29億3,100万円、21年度26億9,700万円、そして22年度が33億800万円と。これは21年度から22年度にぐっと上がったのは、国が金利が高い市債については繰り上げ償還をしていいというようなことで政策的な繰り上げ償還によるものでございまして、33億円に公債費が膨らんだというところでございます。

次に、もう1つ、(パネルを示す) 義務的経費であります人件費ですね。人件費、これは普通会計のみの人件費でございます。特会のほうは入っておりませんので。一応、18年度は全体の人件費で43億円、その中に職員の給与が26億円、19年度42億5,500万円、職員給与が25億9,000万円。20年度38億4,600万円、職員給与が24億円、それから、21年度38億6,000万円、職員給与で22億8,600万円、それで22年度は35億8,700万円の人件費で職員給与はそのうち21億8,200万円というように、ほぼ右肩下がりでございます。先ほどの扶助費がかなり右肩上がりに対して本当にこちらは右肩下がり、非常に一生懸命努力された成果ではないかなというふうに思うわけでございます。当然これは市民病院の職員の方、特会の職員の方は入っていないということでございます。

それと、収入の面で見えますと、(パネルを示す) これは地方税だけに限ってちょっと書きあらわしてみました。これは自主財源の冠たるもので、地方税の収入でございます。

まず、合併した当時が18年度49億6,500万円、それから19年度は上がりまして54億3,700万

円、これは19年度に税源移譲による地方税が増加したと。所得税と市民税の比率の入れかえで、ここでふえてきた。そして、20年度は景気の若干の回復というようなことで55億2,100万円、それから、21年度はまた景気が悪くなりまして52億7,300万円、そして、22年度51億2,100万円と、こういうふうに下がってきているわけでございます。地方税というのは、当然、入湯税、市のたばこ税、軽自動車税、固定資産税、市民税の法人、それから、市民税の個人の合計になっておるところでございます。

というようなことで、今、収入と支出をちょっとグラフにしたところをお見せしたわけでございますが、本当に決算の概要の中でも5年間取り組んでこられて、予算といたしますか、財源の硬直化を示す経常収支比率、これが19年度が93%あったのが22年度は84.1%と、かなり改善をしておるわけでございます。これは本当に市長を初め行政の皆さんの努力の成果のたまものだというふうに思っているわけでございます。

ここで、武雄市では、行財政の計画としては、武雄市行政改革プラン、これが18年度から22年度までの5カ年計画、それと武雄市の財政健全化計画、これも18年度から22年度まで、それと武雄市の定員適正化計画、これは19年度から23年度までというように書いておるわけでございます。

そういうような中でまずお尋ねしたいのが、武雄市行政改革プラン、これは今年で5年になって、もう23年度となっております。もう最終年度を過ぎたわけですが、このプランに対して、今までのプランに対してどのように達成度を評価されているのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

武雄市行政改革プランということで、ことしの10月に総括をしました。その結果、歳入確保目標総額が5年間で3億円といったところは実績として約4億円確保できました。歳出抑制目標総額、これがちょっと届かなかったですね。5年間で50億円という結構高目のを立てたんですけども、実績として約37億円ということ。それと、将来を見据えた基金の積み立てで、これは前田副市長が指導をして行った話なんですけど、5年で3億円を目標としようと思っていたところが、実績として約13億円積み上がっています。そして、マクロの、もう少し大きな数字をすると、これはよくこのごろ例えで言いますけれども、私が市長に就任させていただいたときに事務方から聞いたときには、地方債の残高、これは我々の世界で総借金額と一般的に言います。これが400億円あったんですよ、400億円ですよ。それが今順調に返っていて今300億円ちょっとになっているんですね。ですので、5年ちょっとで100億円、これは、要因は、例えば市民病院の民間移譲に伴う財産ですよ、この売却。あるいは、こ

れはもともとの計画以上に職員の退職が相次いだと。これは私を嫌いな人たちもいましたけれども、それで33億円、これで減になっているわけですね。しかも、その中で、今度質問があるかもしれませんが、順調に定員削減計画というのは成り立っています。しかし、行革ばっかりやると、やっぱり疲弊するんですよ、疲弊します。ですので、やはり水前寺清子じゃないんですけれども、三歩進んで二歩下がる、人生も同じです。ですので、そんな中で我々すると、水道料金を大きいところだと2割下げました。介護保険料は、これは武雄市単体ではありませんけれども、2割から3割下げています。固定資産税、これも高いところは1.55を1.48にしました。こういったことで、市民負担の軽減というのはなされているんですけども、ここにさっき申し上げたような収入がそれだけ減るわけですね。ですので、未達成部分の歳出抑制目標総額が届かなかったというところについては、こういった市民福祉の維持向上のために支出せざるを得なかったというものが入っていますけれども、全体としては達成状況が78%、よくこんな厳しい中で、これは議会の皆さんたちに御理解をいただきながら、市民の皆さんたちもよく我慢していただいているというふうに思っていますので、これはこの場をかりてまたお礼を申し上げたいと思います。

さらに、行政においては、見ているとまだ無駄な部分とかあります。これについては徹底的にメスを入れます。そして、補助金でもずっと同じように出している補助金というのはあるんですね。これについてもしっかりと見直しをして、本当に、真に必要な補助金の形態になるようにしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今達成度78%ぐらいだということで、本当に私はもっと進んだのじゃないかなというふうに思うわけでございます。財政プランの中では、このままでいけばもう23年度は破綻だというようなことも書いてあります。本当にそういうことからすると、かなりいい成果が出ているのではないかなというふうに思うわけでございます。

この地方税にしても、23年度は出ておりませんが、市民病院の民間移譲、そしてまた工業団地等がもし売れて企業誘致ができたならば、これがもっと上がってこの辺に上がってくるのではないのかなと期待をしているところでございます。

そういうことでいろんな期待をするわけでございますが、次に、職員の方の適正化計画の中で若干お尋ねをしたいと思っております。

職員の定数、これは適正化計画の中では、市民病院、それから、広域圏へ出向されている職員の方を除く一般職の方で、合併当時、18年度453名おられた職員の方を5年計画で23年度には約390名に減らすという計画をしてあります。その中で、ちょっとどうですかということ人事のほうに聞いたところ、10名ほど達成ができなかったということで現状は今401

名だという報告を受けたところでございます。今本当に、国、県からの権限移譲、それに伴いまして事務量がかなりふえてきたんじゃないかなというふうに思うわけでございます。そういうことで10人はまだ達成できなかったということでございますが、この適正化計画、最終年度を迎えられてどのように評価されているのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに10名ほどオーバーしたというのは、ちょっと計画ミスだったということは思います。78%と同じのように、なんですけど、内実を考えたときに、5年前に合併をして新たな体制になったときに、そのときと今を比べてみたときに非常に、これは手前みそになりますけれども、少なくとも相対的には市民の皆さんたちの評価は高くなっているというふうに思っています。私の無理難題にも、よくこたえてもらっています。そして、議員の皆さんたちの非常に高度な御指摘についても、これまたこたえているというふうに――身内を褒めるのもなんですけど思っていますので、質ですよ、行政能力であるとか、対応力であるとか、あるいはもうあいさつも含めてです。ということでいうと、職員の持つ行政サービスというのは相対としてはかなり上がっていると思いますし、それは全国から視察にお見えになったときに、それは異口同音おっしゃられます。武雄市は何か風通しがよさそうだとか、元気があるねとか、あいさつをよくするとかということを言われていますので、これはやっぱり市民の皆さんたちが、そういう厳しい指摘もあつたりしますもんね、私自身にも。それに対してよくこたえているということと、やっぱり公務員の本義というのを、もうわきまえてきた結果だと思えますよ。公務員というのは、要するに皆さんたちの税金で養われていると。もう本当の意味の公僕なんですよ、公僕。それをとすれば、一般的にいうと我々は特権階級だと。それは、正直にいうと、私が市長に就任したときにそれはありました。これは言うなと言われてはいますけど言いますよ。給料のアンケートをしたときに、安いと思っっていますか、高いと思っっていますかと言ったら、その当時の職員の6割は安いって。そんなのあり得ないですよ。だって民間準拠で民間より高いものもらっているんだから。それで、というようにところだったんですよ。しかし、今同じアンケートをした場合に、そんなばかなのは出てきません。それはやっぱり市民の皆さんたちも困っていますし、うちは給料はやっぱりきちんと下げています。下げていますので、そういったことで、我々とすれば、全体の確かに数的には10人残っていますけれども、全体としてはぜひ御判断をしていただきたいと思っています。

そして、人事について申し上げますと、1つは、これは江原議員から再三再四批判をされておりましたけど、Iターン、Uターンはさらに拡充をします。拡充をして、やはり異なる文化のところに僕は活力が生まれてくるというふうに信じています。それは、武雄市議会がそうじゃないですか。いろんなバックグラウンドがあつて、年齢の違いがあつて、さまざま

な経験があって、それぞれぶつかり合って活力を出しているという意味では、我々としてもそういう組織体制に持っていきたいと思っていますので、それはより一層進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当に努力をしていただきまして、10人は達成できなかったということですが、（パネルを示す）この人件費ですね。本当に努力をしていただきまして、ここまで下がっております。職員給が26億円あったのが21億円まで下がっているわけですが。本当に努力の成果だったと思うわけですが。

ただ、今からも事務量とかますますふえてくるだろうと思うわけですが。また今、市長の答弁を聞きますと、もうこのまま人員削減というのは考えられないのかなというふうには思ったわけですが、今後この適正化計画といいたいでしょうか、これにどういうふうに取り組んでいかれるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

総数としては下げます。なぜならば、これは皆さんの税金で我々は成り立っているからです。ですので、皆さんたちが本当に御苦勞をされている中で、公務員だけのうのうと太るなんていうのはあり得ません、これは橋下市長と全く同じです。ちゃんと仕事をしてもらいます。で、下げます。下げた上で、これ、やっぱり基準も必要なんです。全体のどれを基準に持ってくるかこれから考えますけれども、総支出額の例えば20%を人件費に充てますということで、その中で体制をちょっと考えさせてくださいと。要するに、数は実はこれは余り問題じゃないんですよ。それよりも、人件費としてどれだけかかっているかというのが多分問題なんですよ。ですので、そういう意味で全体としては下げてまいります。結果、総数も下がる。具体的にいうと、来年もういなくなる人もいらっしゃるんですよ、いや本当に。再来年はまたなったときに、例えば10人やめられたとするじゃないですか。そのときに採用を、例えば4人とか5人にするというので、これを自動行革といいます、自動的に行革が進むといいますので、我々は生首を切ることはありません、そんなめっそんなことはしません。ですが、そういったことで、退職不補充という難しい言葉で言いますけれども、そういうのを進めながら、よりシャープで強い柔軟なそういう組織に変えていきたいということを思っています。それで、なおかつ江原議員からもいっぱい非難を受けましたけど、個別の名前まで出されて。前はIターン、Uターンで言われて。

〔26番「批判じゃないよ」〕

私語を慎んでください。ですので、そういう本当の外的な意見もありますけれども、我々としてはそんなのに屈しませんので……

[26番「屈しなさいよ」]

屈しません。そんな——ちょっと江原議員、答弁させてください、本当。

[26番「わかりました」]

○議長（牟田勝浩君）

継続してください。

○樋渡市長（続）

ですので、そういったことで我々としてはいろんな異なる人たちが集まってくるということで、いい市民サービスの向上に努めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。

そういう中で、やはり行政改革を進めていくということは、年々ずっと行政が変わっていくわけですね。そういうような中で、やはり人事考課、これもずっとやってはこられていると思いますが、やはり考課の仕方というのは、行政改革に合わせて変えていくべきだと思っわけでございます。そういうふうにして、人事考課もその年代に合う考課をして——当然しておられるかもしれません。そして、その考課によって職員を評価するというのはおかしいですけども、職員のスキルアップ、それと、モチベーション向上のためにそういう人事考課を取り入れて新たな給与制度等も目標として取り組んだところもあります。実際なかなか役所というのは、そういう評価というのは難しいかも知れません。評価で給料云々ということよりも、そういう評価をしながら、その中で職員の方のモチベーションを上げるという方法をとっていくというようなことでやっておられるようでございます。武雄市としてはどうのお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ちょっとごめんなさい、さっき答弁し忘れていたんですけども、合併算定がえがもう起きます。そうすると、12億円交付税がやっぱり減らされるんですね。平成23年からすると10年で12億円、場合によっては13億円減らされるんですね。ですので、そういった意味で行財政改革というのは待たなしたんですね。これは今まで合併をしたのでその分だけいろいろ優遇措置があったんですけども、合併算定がえというのがあって、もう全部交付税化されると総額として12億円から13億円減らされるということは市民の皆さんたちもぜひ御

理解をいただきたいと思います。

その上で、私が考えているのは、以前、私の父は県庁の職員でした。課長になったときに何でかうちに赤飯の出たですもんね。何で赤飯の出っのかなと思ったら、「いや、お父さんの課長になんさった」て、「課長てそが偉かどね」と言ったら、「いや、そうでもなかかもしれん」とか言いよったですけど、でも、それでやっぱり課長になるといふぎ、頑張るぎんたられるわけですね、課長さんは。どこの組織でもそうです、頑張ればられる。うちの役所の場合は、みんな課長になりたか人ばかりじゃなかとですよ。なぜかといふぎ、課長になるぎんた残業代がなくなると。これはそうなんです、給料が減るといったこともある。うちは残業禁止令出しましたので、そこは過去とは違いますけれども。そういったことで、課長になってもメリットがないと。委員会では、議員の皆さんたちから御指導、御鞭撻を賜ると、これはたまらんといふので、そういったこと。

それと、部長になれば——もうここにいらっしゃる方々は奇人な人ですよ。給料はさらに減って土日もない。しかも、私の無理難題を対応しなきゃいけないということで、そうやってきたときに、やっぱり私が考えたいのは、それに報いたいといふのがあつたんですね、出世はいいことなんだつて。だから、課長になったときにはおうちで赤飯が出るという、昔の日本のサラリーマン社会ですよ、植木等さんの。（「そうそう」と呼ぶ者あり）ですので、課長になる、あるいは部長——部長になると、これ、運もありますから、全員がなれるわけじゃありませんから。ここにいらっしゃる方は運だけじゃないですけど。ですので、そういうふうに出世の階段を上がっていくといふことが、私はこれ言うともた市長は出世主義者だとかいろいろ言われますけど、これは僕の本心です。そうすることによって、より大きな権限を持つ、権限を持つ人たちがちゃんと金銭面でも報われるといふふうに出世体系を抜本的に改めたいと思います。

ですので、今いる人たちが減るといふことはしませんよ。（「そうそう」と呼ぶ者あり）だから、手当を拡充するなり。今でも、例えば総務課長なんてかわいそうですよ。昇格はしても昇給がないといふ、そんなのあり得ますかね。ですので、ただ、そうは言っても総人件費がありますから。そこで、みづから総務課長が、あるいは課長さんたちがそういう意を呈してしてやっつけてくださっていると思つたんですけど、それを余りやるとひずみが出てきます。ひずみが出てきますので、そういう役職に応じてちゃんと報いると。これは、一般の企業だったら、末藤議員、そうですね。そういうふうにしていきたいと思つた。

事務方のトップは副市長ですけども、副市長になれるのはもう本当に運です。これね、市長になるよりも難しいですよ、本当。だって議会の同意まで要りますからね。ただ、課長になるといふことは頑張ればできるといふ昔の日本のよさを、もう武雄市役所で取り戻したい。それが私は全体の活力の維持向上につながっていくといふふうにおつております。

人事とは今のところこの意見についてまだ対立をしていますけど、私の意見を粘り強く粘

り強く人事当局には伝えたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当に予算のあることですから、やはり人件費というのは抑えていかないかんというのはもう当然のことです。その中で、やはり今言うように、職員の方が沈んでしまったらだめと思います。やはりスキルアップ、何らかの形でそういう報償も与えていくということがいい方法だろうというふうに思うわけでございます。そういうことで、市長にはぜひ頑張っていたきたいというふうに思います。

次の質問に移りますが、公共施設のインフラの経年劣化への対策というようなことでお尋ねしたいと思います。

これも今後資金がいっぱいかかってくるわけでございまして、行政改革の重要なポイントではなかろうかというふうに思うわけでございます。水道事業や下水道事業に関しましては、先月の決算認定特別委員会の中で、私も特会のほうの認定の委員になっておりましたので、そちらに参加いたしましていろんな計画について説明を受けたわけでございますが、きょうはその市道の橋梁、このことについて、劣化対策についてお尋ねをしたいというふうに思うわけでございます。

橋梁というのは建物と一緒に鉄骨やコンクリートでできたわけでございまして、やはり経年劣化が発生し、ひび割れ、また鉄骨の腐れ等も起こってくるわけでございます。そういう中で、海外では、もうこの経年劣化による落橋事故、大きな事故も起きているわけでございます。そういうようなことから、やはり建物と同様、橋梁としても耐震補強、またクラック、ひび割れ等の補修等も今後計画的にやっていかないかんのじゃないかというわけでございます。

そういうようなことで、今、武雄市に管理されている橋梁というのはどれくらいの数があるのか。それと、橋について、そういう耐震の調査、劣化の調査はどれだけ進んでいるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

橋梁の経年劣化の件についてお尋ねでございます。

現在、武雄市市道におきましては、橋梁数540橋持っております。うち、重要橋梁と言われます15メートル以上の橋梁が88カ所あります。それから、なお重要路線等にかかっている橋が50橋ありますので、この138の橋について昨年度から橋梁の現地調査を開始しております。

なお、橋梁の現地調査でございますが、現在、国の補助制度がございまして、26年までにこの計画に乗ると国が補助していただくということになっておりますので、それに従って動いております。

なお、橋梁の長寿命化につきましては、昭和40年前後以降、急速に公共施設が整備された関係で、一気にコンクリート橋、あるいは鉄骨の橋にかわっております。そういうことで、もうこれが40年、50年来まして、これからまた一挙に更新する時期を迎えるということで、この橋をかけかえるというのは大変な莫大な金がかかりますので、これを事前に修繕をして長寿命、要するに寿命を延ばすという計画でございます。そういうことで現在行っております。

なお、来年度にはその計画、財政計画を含めまして計画をつくりたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今調査中ということですが、それじゃ、まだプランもできていないわけですね。大体、概算といいますか、調査ができていないのにこうというのはわかりませんが、もし、劣化の対策、補強、こうすれば今重要な橋が138カ所あったということですが、どれぐらいの金額が予想されますか。わかる範囲で結構ですから答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

ちょっと数字は石橋をたたくわけではございませんが、ちょっと金額については全く予想がつきません、申しわけございません。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

調査された段階で、早くわかればお示しを願いたいと思います。

それで、次に、橋から今度道路へと移らせていただきます。

道路も今いろんな問題がありますが、まず、これはよく聞かれまして、どうなっているんだということ言われますので、これはちょっとあれですけどもお尋ねをしたいと思いません。

まず、非常に待ち望まれております国道35号線のS字カーブの改良工事ですね。これはもう山内町時代から、もう本当20年も前から要望を国等に働きかけ、一生懸命取り組んできたいきさつがあります、先輩議員等も一生懸命行っておられてですね。そういうようなことで、

やっと工事が見えてきたというようなことで、敷地の測量、また用地買収に入るという説明もありました。それで、国としてもこういう予算の関係でしょうか、なかなかわからないところもあるわけでごさいます、「いつ完成するんですか」と聞かれるんですけども、なかなか答えができないわけでごさいます。そういうことで、35号線の完成時期、それと、今の現状がどういう状況なのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、現状を申し上げますと、これは黒岩議員にもお答えいたしましたけれども、今年度は調査設計、用地買収、工事用道路を計画され、事業費1億5,300万円となっております。全体事業費がまだ不明で進捗率は公表をされておられません。大体こういう大きな事業というのはそれが当たり前なんです。ですので、そこはそうなのかなというふうに思っています。完成年度は早ければ平成28年度です、早くて平成28年度になっています。ただ、震災の影響で国交省からはちょっとスローダウンするかもしれないということを言われていますので、これはちょっとお酌みおきをいただきたいと思います。

今、10月5日に国土交通省の佐賀国道事務所長、ここの所長さんもいい人です。この所長さんが先頭に立って全体説明会を10月5日にされております。今個別に地区の皆様方とか地権者の皆様方に御説明に当たっていただいているという運びになっております。これ、20年たってやっと動いたということ言われているんですけど、その間ちょっとお礼を申し上げたいのは、杉原議員、末藤議員、山口裕子議員、そして浦前議員なんです。この方々が、私はその当時総務省という役所におりましたけれども、本当に手弁当で国交省に行きよんさあと私見よったとですね。（発言する者あり）江原議員、ちょっと私答弁していますよ。そして、江原議員は反対されたというふうに聞いております。（発言する者あり）そういった中で——ちょっと江原議員、何とかしてくださいよ、本当。

〔19番「なしぶつぶつ言いよると」〕

○議長（牟田勝浩君）

どうぞ。

○樋渡市長（続）

そういうふうに杉原議員とか末藤議員とか山口裕子議員とか浦前議員が一生懸命やられていて、それを今も否定されるような江原議員の発言もありましたけれども、私が仄聞する限り、この方々は反対しているんですよ、反対。（発言する者あり）反対されています。ですので、そういった中で、本当に地元の議員さんであるとか、あるいは地権者の皆さんですよ、最大の。これは議員さんよりも地権者の皆様方の深い理解があって、なおかつ地区の皆さんの御理解があって今ここに進んでいるということについては、これは我々は絶対に忘れ

てはいけないということを思っております。

その上で最後にしますけれども、もう佐賀の国会議員は全然やっぱりだめですね、自民党も民主党も、もう本当に。これ、一番動いたとは古賀誠さんなんですよ。黒岩議員も一緒に行かれましたし、稲富県議も一緒に行きましたけど、古賀誠代議士はどこの代議士ですか、福岡ですよ、幸か不幸か。ですので、そういうふうには国会議員の力というのは、私は古賀誠さんを通じて学びました。もう国会議員は全然役に立たんと思っていましたけれども、古賀誠さんにも、これは北方の34号バイパスもそうです。あるいは、目立たないところでも、よく国交省に電話をさせていただいています。私たちとすれば、そういった動きについてもあわせて感謝をしたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当に今市長も申されたとおり、地権者の協力がないと絶対これはできないわけでございます。そういうことで、本当、私どもは地権者の方に対して敬意を表するわけでございますが、早い買収ができて、何とか早く着工をしていただき、完成を目指していただきたいというふうに思うわけでございます。

今年度1億5,300万円予算がついたと、本当に今までこれだけ要望をしておいて、なかなか予算がつかなかった、その中にこの1億5,000万円がついたというのは、本当にありがたいことだと思っております。そういうようなことで、ぜひ推進を市当局としても行っていただきたいというふうに思うわけでございます。

それと、県道でございますが、県道についても、今、私ども地元といいましょうか、梅野有田線、相知山内線、嬉野山内線、この3つが部分的に工事をされておまして、まだまだ完成に至っていないわけでございます。そういうようなことで、地元からの要望、もうこれは物すごく強いものがあります。拡幅工事の早期着工、それから早期完成、これを強く望まれておりますので、市当局からも何としても県のほうに強く要望をしていただきたいというふうに思うわけでございます。

そして、今本当に日本で一番注目をされている市は大阪市と武雄市じゃないかという思いでございます。どうか行政改革をますます深く組み込んでいただきまして、本当によそに自慢できる武雄市ができますようお願いを申し上げまして、本日の私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で14番末藤議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 15時40分